

干ばつ対策に重きを置いた大豆栽培

江口 和広 氏

佐賀県杵島郡白石町

- 基幹作物** 大豆6.0ha(品種名:フクユタカ)、水稻4.6ha、麦類9.8ha
- 特徴** 全国的に湿害対策に重きを置く栽培が主流であるが、近年開花期以降、干ばつが続き乾燥対策が収量安定には重要と考えており、弾丸暗渠を行っていない。
干ばつ時はパイプラインより入水、本暗渠管を逆流させることで干ばつ対策を行う。

大豆生産状況



栽培上の特色

● 省力化

播種については地域の慣行栽培では150cmロータリー×2条播が大半を占めているが、独自に220cmロータリー×3条に切り替えた。これにより慣行より約40%(0.3時間/10a)程度労働時間を削減している。

播種時の土壌水分に応じてスタブルカルチ+ロータリー播種又はロータリー一発播種を行っている。

● 乾燥対策

栽培管理支援情報サービス(SAKUMO)の情報田(JA依頼)として設置し干ばつ時にJAからLINEメールでアラートが発せられ、そのタイミングでパイプラインより入水、暗渠管を逆流させ畦間灌水を行っている。

地域農業への貢献及びその他の取組

- 10年以上前から県・JAの委託試験等(「そらみのり」等の新品種、播種技術、早播、肥料等の実証試験)について積極的に協力するとともに、個人でも収量増や低コスト生産が見込める技術を模索し積極的に取り組み、その経験や情報を若い担い手にも伝えている。
- 農地の集約については、移動時間の短縮作業性の効率化を念頭に、居住地から半径400m程度に農地を集約している。